

## 日本中国友好協会岡山県支部連合会第1回理事会開催

犬飼 繁

4月26日(火)、岡山市の民主会館で、日中友好協会岡山県支部連合会第1回理事会が開かれました。経過報告の後、私からロシアのウクライナへの侵攻に対する中国の対応やこれを好機とばかり自民党や日本維新の会から「核共有」や「敵基地攻撃能力」など物騒な話題があつていると情勢報告しました。また、理事会の運営や役員を担当について協議しました。役員を担当については下記の表のとおり決定しました。

日中友好協会岡山県支部連合会役員	担 当 分 野
会 長	宇野忠義 (倉敷支部) 総会・渉外・本部との連絡・新支部結成
副会長	河井伸士 (岡山支部) 総会・渉外・新支部結成・旅行
理事長	小林軍治 (岡山支部) 理事会・帰国者支援
副理事長	大本芳子 (倉敷支部) 理事会
事務局長	犬飼 繁 (倉敷支部) 本部との連絡・会計・新聞編集・理事会
事務局次長	曾田和子 (岡山支部) 理事会・日本語教室
事務局員(理事)	真田紀子 (岡山支部) 新聞編集・映画会
	竹内袈裟之(岡山支部) 新聞編集
	平井昭夫 (倉敷支部) 百科検定
	鳥越英明 (井笠支部準備会) 新支部結成

## 第5回新支部結成準備会開催

犬飼 繁

5月17日(火)14:00~井原市出部公民館で第5回新支部結成準備会が開催されました。出席者は地元井原市周辺から鳥越さん、佐藤さん、三好さん、石井さん、岡山支部から真田支部長、河井理事長、小林事務局長、吉岡さん、倉敷支部から宇野理事長と私の計10人でした。

10月に井原で予定している講演会などについて打ち合わせをした後、日中友好協会の井上久士会長の講演「中国の近現代史を学び現在の中国の問題点を考える」課題『中国は対外的には覇権主義・大国主義で、国内では自由も民主主義も人権もない社会である』という意見をどう考えたらいいのか。』の資料を基に、今の中国に関するざっくばらんな意見交換を行いました。

今年は日中国交回復50年の節目の年ですが、偏ったマスコミの影響もあり、日本人の対中感情は悪化しています。こうした状況での日中友好運動の在り方について、学習する機会を今後も持ちたいと思いました。帰りに井原市文化財センターに寄って、「倉敷支部結成15年誌」を寄贈いたしました。



### 日中友好協会倉敷支部第18回定期総会をご案内します。

日 時 2022年6月18日(土) 13時30分  
場 所 ライフパーク倉敷 2階第3会議室1  
3:30 開会

- 議長選出
- 来賓あいさつ
- 議事
- 一年間の活動報告とこれからの方針  
(岡山県支部連合会結成、規約改正)
- 決算報告と監査報告・予算提案
- 討論
- 新役員の選出
- 15:30 閉会

注 出席、欠席のご連絡のお願い  
(議案書は後日送付予定)

- 欠席の場合、下記あて電話・FAXまたはメールで6月15日までに、議事決定委任の旨ご連絡頂ければありがたいです。簡略で申し訳ありません。
- TEL&FAX(宇野宛て) :050-3440-1931、または [tauno@384.jp](mailto:tauno@384.jp)  
日中友好協会倉敷支部支部長 栗本泰治



題字 藤原田 親

No. 974

2022/6/1



発行所  
日本中国友好協会  
〒511-0932  
東京都台東区浅草橋2-1-3  
日中ビル5F  
電話 03-5839-2141(TEL)  
FAX 03-5839-2141  
http://www.jcf-jnaa.jp  
E-mail:jcf@jcf-jnaa.jp  
※FAX 03-5839-2141

日中友好協会  
岡山支部  
〒708-0034  
岡山市北区下伊福  
西町1-59 民主会館1F  
TEL/FAX 0863-256-8808

日中友好協会  
倉敷支部  
〒713-8031  
倉敷市福成町東22-61-41  
TEL/FAX 0861-411-7808

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rizhongyouhao.jinaa.net/>  
メールアドレス  
[nicchukayama@yahoo.co.jp](mailto:nicchukayama@yahoo.co.jp)



第14回「中国帰国者問題写真と資料展」を岡山市役所ロビーで4月26日から28日まで開催した。岡山県から送出された龍爪・七虎力・大主上房・浩良大島開拓団を写真と文章で紹介した。その紹介で「なぜ中国残留孤児が生まれたのか」という一つの「解答」を示したものである。筆者は、4月27日と28日午前中と開拓団にいた当時の子どもの時の写真と日本に帰国した後の現在の写真を見てもらった。どういう状況の中で「残留孤児」になり、訪日調査で感激の再会があり、そして現在の「孤児」たちの生活の状態を詳しく解説した。

参観してくれた中の一人に、遼陽から両親が引揚げてきた人がいた。「もっと親に聞いておけばよかった、懐かしく写真を見ただけでも涙が出ました」とアンケートに書いてくれた。

県会議員の大塚愛さんは「満州の開拓団で行かれた方々の生活や戦時の大変な避難行について青木先生のお話から当時のことがとてもリアルに伝わり受け止めました。知ることは大事なことです。また帰国者の方たちの支援についても長年取り組んでくださって有難い思いがします。今日はどうもありがとうございました」

鬼木のぞみ市会議員の紹介してくれた参観者は、「介護の問題などは過去のことでなく現在進行中のことだと強く思いました。記事を読んだり、説明を聞かせて頂いて涙が溢れました。ウクライナのことも同時に想像し、決して戦争・侵略は許されないと強く思いました」

中国からの帰国者である山根さん(83歳)は、父親が軍人(少佐)、母親がジャムス陸軍病院看護婦長であった生い立ちや北京の大使館を通じて1979年に帰国した経緯をお話して帰られた。

織田エミ子さん(84歳)は、龍爪開拓団で3人の弟や妹を逃避行中に亡くした。運よく母親と叔母と3人で日本へ引き揚げた。「当時7歳だった時のことを思い出しました。懐かしく思ったり、悔しく思ったり、複雑な心中を思い出しました。残留孤児の方々のことをこんなに考えてくださっていることに感謝です」とアンケートに書いてくれた。織田エミ子さんは、従弟に当る高見進・英夫兄弟を発見するために北京大使館に高見一家の写真を送って探し出してくれた方である。

28日は、鬼木さんの呼びかけで奥津弁護士や二人の女性が参観してくれた。

延べ3日間で約200人の方々が熱心の参観してくれた。こうしたロビー展は意義あることであり、今後も継続していかなければならないと感じた。

倉敷支部映画会「戦争と人間第3部完結編」開催

犬飼 繁

一昨年の12月から始めた「戦争と人間」の映画会、6回の上映は1年で終わると思っていたのに、度重なるコロナの影響による中止があり、この4月23日でやっと終了することができました。今回はロシアのウクライナ侵攻もあり、それと重ねて鑑賞された方も多かったと思います。完結編はノモンハン戦争が中心ですが、辻政信のいい加減な作戦により、日本軍は全滅寸前になり、撤退を要請しても許されず、死んでゆく指揮官が哀れでした。それだけでなく、戦闘が終わった後で、辻ら参謀は責任をすべて現地の指揮官におっかぶせ、自決を強要するなど当時の日本軍の残酷さを感じさせました。参加者の感想を紹介します。

「日本の中国東北部侵略からノモンハン事件までの歴史を産業・経済と軍部の実情、動向また中国国民の生活や社会状態を知り、学ぶ上で貴重な機会となりました。ノモンハンには3年前に訪問しましたが、その時の経験とハイラルの基地の跡の訪問も思い出されます。現在のロシアのウクライナ侵略を重ね合わせて反戦の意識をさらに強めました。」(宇野忠義)

「戦争のむごさをリアルに画面に写し出し、目を覆うような場面が多くやはり戦争になってはいけなかつくづく思う。人間として生まれてきて、軍隊という組織に入らざるを得ないという国づくりはやめてほしい。人は戦うために生まれてくるものではないと感じる。戦争は悪。今ロシアはウクライナを爆撃したりしているが、以前日本が中国にした愚かな行いと同じことをしていると思う。『バカみたいな戦争に殺されてたまるか』の言葉が胸にしみた。平和な世が続くことを願うし、そのためにも今の政治を変えたいと思う。平和な世界になるようにする政府を作りたい。それにしてもすごい映画だ。もっと大勢の人に観てもらいたい。」(70歳以上女性)

「第6回の上映が完結したが、まるでロシアがウクライナに侵攻している今の姿のキエフ、ハリコフ、マリウポリの現状そのもので、戦争で人が人を殺すというとても残酷な現状を見て、いやになりました。」(70歳以上男性)

次回の新聞送作業は  
6月13日(月)午前10時半から  
民主会館2階で行います。  
前回お手伝いくださった方  
です。  
小林  
真田  
竹内  
坪井

「私たちが経験したあの戦争はもう2度とないと思っていた。しかし、今ウクライナではあのような戦争をロシア軍がやっているではないか。人間とは愚かなものである。『ノモンハンの夏』の本を読んだ。5月から8月までのノモンハンの戦いを書いたものだった。本を読んでいたのにより理解できた。俊介の話した『敵と戦ったのではない、戦争と戦ったのだ』が心に残った。人間の弱さ、愚かさを知った映画でした。」

「6回にわたる上映、ありがとうございました。作戦の失敗を自分の死で解決する無責任さ、そのためにどれだけの人が苦しめられ死んでいったか。罪もない中国の人々を殺戮していくあの日本軍の姿がウクライナ侵略と重なり怒りが増幅された。」(70歳以上女性)